

2014年度 国際共同研究交通費補助研究成果概要報告書

別紙可 (A4用紙1～2枚)

所属・職・氏名	人間福祉学部・教授・中野陽子
共同研究者 所属・職・氏名	The Potsdam Research Institute for Multilingualism, the University of Potsdam・ Professor and Director・Harald Clahsen
研究課題	第一言語と第二言語における屈折接辞と派生接時の処理メカニズム
研究期間 (実際の派遣又は招聘期間)	2014年 5月 28日 ～ 2014年 6月 2日
研究場所	関西学院大学内

概要 (1000字～2000字程度)

本研究はドイツ語と日本語の屈折接辞及び派生接辞の処理メカニズムについて母語話者と学習者を対象に調査を進めている。これまで関西学院大学の中野陽子は母語話者と第二言語学習者における言語処理について研究してきた。また、西本(旧姓、池本)優(同大学非常勤講師)は日本語母語話者の派生語処理について様々な心理言語学実験を行い研究してきた。Clahsen 教授はポツダム大学の多言語主義研究所において、ドイツ語やトルコ語で派生や屈折を含む複雑語の処理に母語話者と学習者においてどのような違いがあるか研究を進めてきた。今回の研究は、ドイツ側の Clahsen 教授の研究チームと日本側の中野・西本が共同で進めている。

屈折や派生語の母語話者での研究は様々な言語において数多くの先行研究があるが、異なる実験手法や異なる結果から多くの議論や仮説があり、心理言語学分野において近年非常に注目されている。これまでの先行研究とは異なり、本研究では屈折語と派生語を一つの実験において調べることで、より直接的な比較が期待されるという新しさがある。具体的には、**masked priming** という手法を用い、同じターゲットを用いて屈折語と派生語の視覚処理を比較する(例：ターゲット「眠る」に対してプライムでは屈折(「眠った」)と派生(「眠り」)を用いる。)一つの言語について母語話者と学習者を調べても、結果を一般化することは難しいため、二国間の共同研究で複数の言語を検討することは重要である。またドイツ語と日本語を用いる利点として、それぞれの言語の書記体系が異なることが挙げられる。また、ドイツ語と日本語では一文字に含まれる情報量が違うことから、母語話者のみの処理過程を比べても非常に興味深い結果が期待される。

日本語の第二言語学習者として、当初は中国語母語話者を対象としていたが、現在は韓国語母語話者を対象にデータ収集を行っている。実験では、漢字を使用すると語幹と接辞の境が明らかになってしまうため、平仮名とカタカナを使用している。中国人日本語学習者は日本語能力試験の N1 レベル合格者であっても誤答率が高かった。原因としては、中国人学習者が母語の漢字の知識に頼りながら日本語を理解しているため、仮名文字のみが表示されると、その処理が困難であることが考えられる。韓国語の書記形態は音韻の符号のみであるため、韓国人日本語学習者で日本語能力試験の N1 レベルを合格するには母語の漢字にのみ頼った文章理解はできないと推測され、仮名文字を処理することができると期待された。そこで上級の韓国人日本語学習者を対象として研究を進めることとなった。

本年度は Clahsen 教授を本学に招聘して関西学院大学で集めた日本語母語話者 26 名のデータの分析結果を共に検討し、議論した。分析結果は期待されていたものに近かったが、統計的にわずかに有意でない値が数カ所見られたので、更なるデータの見直しが必要である。今後は、未分析の 2 名のデータを含めて再分析を行い、ドイツ語のデータと合わせて議論を進める。また結果が良好であれば、今年度中には共同で母語話者の形態素処理についての論文を執筆する予定である。また、現在集めている韓国人日本語学習者のデータを引き続き集め、一定の人数分のデータが取得でき次第分析を行い、Clahsen 教授と結果について議論し、ドイツ語の研究と二国間の共同研究として発表する予定である。

Clahsen 教授が本学を訪問された際には、言語コミュニケーション文化研究科の実験設備を見学された。また総合心理学の片山順一教授と大学院生の協力の下、総合心理学部の事象関連電位測定を中心とした研究施設の見学を行い、更なる今後の共同研究の可能性についても検討がされた。また Clahsen 教授は 2010 年に Alexander von-Humboldt Professorship を獲得された国際的に著名な研究者

であるので、本学で開催された日本第二言語習得学会の年次大会にて講演を行ってもらった。中野・西本も同大会で研究発表を行い、Clahsen 教授及び同行された Claudia Felser 博士より多くの示唆を得ることができた。